

北上市 住民に寄り添う地域内交通を研修

建設環境委員会 橘 祥朗

10月16日、議会建設環境委員会は、岩手県の北上市を訪問、公共交通について研修しました。

北上市は人口9万余、1市、



北上市の公共交通について研修

2町村の合併で、新幹線駅や高速インターもある都市部と、広域な農村部との市です。当市は、都市拠点2か所と地域拠点16か所を地域コミュニティターミナルとし、「多極集中連携都市」と位置付け、花びらにたとえ、「あじさい都市北上」と名付けています。また、平成29年に「公共交通のマスタープラン」を策定、中心市街地の都市拠点と地域拠点を公共交通でつなぎ、人物・情報の交流をめざすとしています。

交通ネットワークとして、①幹線交通は岩手県バス、②都市拠点と地域拠点を結ぶ路線は、岩手県バスと市の「鬼丸号」と呼ばれるコミバスが一日5便を基準に運行、③周辺部の地域内交通として自宅から地域拠点(乗り継ぎ場所まで)を基準に、現在5地域で、タクシー会社や、住民によるNPO法人が乗り合い車両を運行しています。利用者も地域住民や会員制で限定し、運行も曜日限定で一日2、3便などとなっており、制度発足から10年となっている地区もあり、担い手の高齢化、後継者が課題とのこと。松江市の地域交通では、利用者減が大きな課題となっています。

尾村県議、田中市議が、県政・市政報告

11月17日(日)、法吉地域の、市政を語る会が行われ、尾村利成県議と田中はじめ市議が国政・県政・市政について報告し、参加者と共に政治



法吉地域市政を語る会

を語り合いました。まず、田中市議が、11月に行われた原子力防災訓練について、及び、9月議会で行った、保育料無償化で減る市の財政負担分を保育の充実との要求と、国保料引き下げのための均等割り保険料減免について報告しました。

続いて尾村県議が県政について、11月議会で災害対応の充実を求める決意を述べ、また、丸山知事の公約を守らせ、県民の暮らしを守る県政実現めざした共産党県議団の取り組みを報告しました。さらに国政を語るがしている桜を見た。

る会の問題について、徹底追及で安倍内閣を倒そうと呼びかけました。

その後、参加者からの質問・交流コーナーでは、原発災害の避難訓練などしなくてよい松江にするために原発ゼロの実現を、松江の国保会計に18億円も基金があるのはあまりにも異常ではないか、安倍首相の政治の私物化は許せないなどの発言が相次ぎました。

会場には署名コーナーも設けられ、参加者は、高すぎる国保料引き下げを求める署名などに、次々署名してまいりました。

岐阜市 メディアコスモス 若い世代の利用を促進する滞在型図書館

総務委員会 田中 肇

総務委員会視察で、10月2日、岐阜市を訪問し、市民活動交流センター、多目的交流プラザ・ホール、図書館などからなる複合施設である「メディアコスモス」を視察しました。



岐阜市立図書館

建設の経過、運営手法、施設の特徴などについて、「滞在型図書館」をコンセプトとする市立図書館であること、10年間にわたる、市民意見集約、基本構想、基本計画を経て、平成27年に開館したとの説明を受けました。視界の開けたオープンな構造で、県産材のヒノキの板を9、21層のレイヤー上に組み上げた屋根構造を持ち、地下水(長良川の伏流水)、太陽光・熱を活用し、消費エネルギーを減らしていました。説明後の施設見学で、図書館の将来像についての参考になりました。

金沢市の宿泊税 全ての宿泊事業者視野に 経済委員会 吉儀敬子

私が所属する経済委員会は、10月23日に富山市の「耕作放棄地対策と担い手総合支援事業」、24日は、富山県滑川市の「ホテルイカを活用した観光振興とブランド化」、25日



宿泊税について説明する税務課担当者

は、金沢市の「宿泊税と新産業創出ビジョン」について視察しました。特に金沢市の宿泊税は、全ての宿泊事業者にアンケート・説明会を実施。昨年の3月議会で宿泊税条例を可決。総務大臣の同意後、6月に条例と規則を公布。すべての宿泊事業者に事務説明会を実施し、今年の4月から宿泊税の課税がスタートしました。

税額は、1人1泊2万円未満は200円、2万円以上は500円です。今年度は6億6千万円の収入を見込み、無電柱化の加速や景観の保全、伝統

課税に当たり、京都市は、修学旅行の宿泊は除いていますが、金沢市は、宿泊事業者の事務の煩雑さを避けるため、修学旅行も課税するかわりに工芸、茶道・香道、芸能など金沢の伝統文化の体験費用を1人500円助成するという制度を発足させています。新幹線開業で、入り込客は1千万人にも及ぶ半面、住宅地の傘立てやポストにゴミが捨てられるなどの問題も出ており、市民生活と観光の調和問題が課題のようです。